

常松大谷遺跡 つねまつおだにいせき & 常松菅田遺跡 つねまつすがだにいせき

昔から大谷・・・？

常松大谷遺跡では、古代の層を掘り下げていくと、奈良時代～平安時代の墨書土器が出土しました。墨書土器には、役職名、人の名前、地名などを土器の内面や外面に書いている場合が多いです。

今回出土したものは、高台付きの坏ですが、坏の部分が割られ、高台しか残っていませんでした。そして、その高台部内面（底部）と見込み部に大きく文字が書いてありました（写真1・2）。



しかも、その文字は「大谷」！この遺跡の名前と同じでした。もし、この文字が地名を表したものであれば、遺跡周辺は昔から「大谷」という地名だったということがわかります。このような土器の両面に地名が書いてあるものは、山陰地方ではほとんど見つかっておらず、とても貴重な資料になりそうです（^^）



写真1 高台部内面（底部）



写真2 見込み部

下坂本清合遺跡 しもさかもとせいごういせき

♪通いゃんせ、通いゃんせ。

右上の写真を見てください。調査区の真ん中を手前側から奥に向かって、へびのように曲がりくねりながら伸びる白っぽい帯が見えますね。実はこれ、江戸時代の終わりごろに使われていた、田んぼのあぜ道なんです。

帯の部分は周りよりも少し盛り上がっていて、その上には無数の足跡が残っていました。人の足跡に混じって、直径10cm程度の丸っぽい足跡がありました（写真右下）。真ん中で二つに割れていること

ことから、牛のひづめの跡と考えられます。

トラクターが普及する以前は、牛馬に犁や鋤を引かせて田おこしや代掻きを行っていました。牛を連れた農夫があぜ道を通って田んぼを行き来していた、当時のほのほのした光景が思い浮かびます。



調査区(1-1区)を西側から見たようす



牛のひづめの跡

鳥取西道路の遺跡を掘る！

第63号 2014年7月23日

ガラス製品が貴重であった弥生時代に、ガラス製の勾玉や管玉などを入手することができた人々が湖山池南岸にいました。

松原地区の発掘調査で見つかった弥生時代のガラス製品について紹介します。



たかが「ガラス」、されど「ガラス」

現代の私たちの身の回りにはガラス製品があふれていて、特に珍しいものではありません。しかし、昔の人々にとっては身近なものではなく、今のようにガラスが見慣れた物になったのは明治時代以降といってもよいでしょう。

では、日本にガラスが伝わったのはいつなのでしょう。確かなことは分かりませんが、弥生時代前期終わり頃（約2,300年前）には中国から日本にもたらされていたようです。透明感があり、光り輝くガラス製品は当時の人々を驚かせ、魅了したことでしょう。

それでは、現在の鳥取県に伝わったのはいつなのでしょう？鳥取県における最古のガラス製品は湖山池南岸にある松原田中遺跡（平成22年度調査）で見つかった弥生時代中期後半頃（約2,100年前）の青緑色をしたガラス製管玉です。

松原田中遺跡の東側約1kmにある弥生時代後期前半（約1,900年前）の墳丘墓（弥生時代の土を盛ったお墓）である松原1号墓からは、ガラス製の勾玉が19点、管玉や小玉が計1,200点近く見つかり、貴重なガラス製品を多数保有できる有力者が居たことが分かりました。また、現在発掘調査を行っている松原田中遺跡でも、青色のガラス製勾玉が見つっています。詳しい時期は分かりませんが、弥生時代のものの可能性があります（写真参照）。

これらのガラス製の玉類は、いったい誰が作り、どこから、どのような人の手を経て運ばれてきたのか。想像は膨らむばかりです。

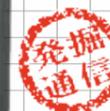


松原田中遺跡出土のガラス勾玉 (平成26年度調査)

(公財) 鳥取県教育文化財団
調査室

〒680-1133
鳥取市源太12番地

TEL: 0857-51-7553
FAX: 0857-51-7550
メールアドレス:
tottori-kyobun@kyobun.
sakuratan.com



7月5日(土)に松原田中遺跡の現地説明会を開催いたしました。お越しいただいた皆様、ありがとうございました。

さて、先日梅雨は明けましたが、今年も暑い夏になるのでしょうか？発掘現場はとて暑くなっています、すでに「盛夏」という感じです。

皆さんも水分を十分にとり、熱中症に気をつけてください。

鳥取県教育文化財団 調査室

検索

大桷遺跡

だいかくいせき

弥生のムラ発見！！



調査が進んだ3区からは、弥生時代
終わり頃（約 1,800 年前）の建
物の跡、貯蔵穴などが見つか
り、この地に弥生時代のムラがあ
ったことが分かりました。

見つかった建物跡の中には、写真①の
ように並行する2つの溝に柱を立
てる「布掘建物」がありました。「布掘
り」とは建物等の基礎工事のため
に、地盤を細長く溝状に掘削する
ことです。これからの調査で溝の中
に立てられた柱の本数や建物の構
造などを明らかにしていきます。

貯蔵穴は写真②のように下に向か
って広がる、きんちゃく袋のよう
な形で掘られており、食べ物をし
まっておく穴であったと考えられ
ます。当時の人々はどのような家
に住み、どのようなものを食べて
いたのでしょうか？興味は尽きま
せん。

これからの調査にもどうぞご期待！！



写真① 布掘建物
柱を立てたと思われる溝が2つ、並行
しています。



写真② 貯蔵穴
底の部分で広くなり、きんちゃく袋
のような断面形をしています。

松原田中遺跡

まつばらたなかいせき

現地説明会を開催しました！

現在盛土2区の調査では、第5面（弥生
時代～古墳時代）の調査が進み、複
数の掘立柱建物跡など多くの遺構や
遺物が見つかりました。これらを含
め、調査全体の様子を多くの方々
にも見ていただこうと、7月5日（土）
の13時30分から説明会を実施
しました。

当日は、小雨の降る悪天候にもか
かわらず 58 人の方にお越し頂き
ました。出土遺物や写真パネルは屋
内での展示、説明となりましたが、
次第に天候が回復したこともあり、
調査区周辺まで近づいてご覧い
ただくことができました。



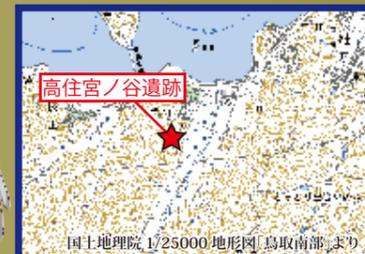
(上) 遺物の展示状況
(下) 盛土2区第5面の掘立柱建物跡
赤：確定 黒：検討中



(上) 屋内展示・解説の様子
(下) 調査区での説明の様子

高住宮ノ谷遺跡

たかすみみやのたにいせき



「午年」だから、というわけではないですが…



ホームページでもお知らせ済みですが、3区で馬形のミニチュア土製品である「土馬」が見つかりました。さらに、出土遺物をチェックしたところ、もう1点、別の土馬の脚と考えられる破片も見つかりました。

最初に見つかったものは須恵器と同じく窯で焼いた「陶馬」ともいべきものでしたが、新たに確認したものは赤っぽい色で、土師器と同質です。

陶馬・土馬は、奈良～平安時代に、「雨乞い」で本物の馬を生贄にする代わりに使われた、あるいは疫病の乗り物とされた馬の脚を破損し疫病の流行を防いだ、などの役割が考えられています。役所付近で見つかることも多いので、近隣にそうした施設があったかもしれず、今後の調査にどうぞご期待、です。

高住牛輪谷遺跡

たかすみうしわだにいせき



弥生時代の冷蔵庫！



写真（左下）の穴を掘ってみたところ、底の方ほど穴が広い、理科の実験で使うフラスコのような形になりました。出土土器の特徴から見て、弥生時代の終わり頃に造られたようです。

フラスコ形の穴は、全国の弥生時代遺跡でたくさん見つかっています。穴の中からコメや木の実が見つかった例もあることから、この穴は食料が保存されていた貯蔵穴と考えられています。

地下は、地上に比べて温度が大きく変化しません。また、夏場はひんやり涼しく、まさに天然の冷蔵庫です。当時の人々はこうした性質を利用して、大切な食料を保存していたようです。



貯蔵穴の底を掘っているところ

田んぼの造成で穴の上半分が削られてしまっています。もともとは1mぐらいの深さがあったはずですが。



貯蔵穴の使用法

しばしば、貯蔵穴から完全な形の土器が出土するので、食料は土器などの容器に入れていた場合が多かったのではないかと思います。